



～つながり ささえあい かわぐち をめざして～

地域のかたの熱い言葉に感動！

地域づくりトークセッションで出てきた企画たち

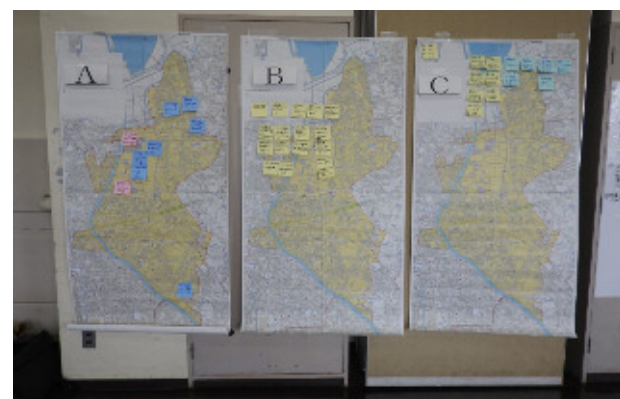
令和5年度より、包括圏域20ヶ所で、「住民座談会」を開催し、地域資源などを話し合いながらマップ作りを行いました。令和6年度は、「地域づくりトークセッション」という名を変えて、8月より開催し、11月現在で、16ヶ所開催しました。

「地域づくりトークセッション」は、各地区、障害・高齢・子ども分野の関係機関や施設のかた、町会・自治会、民生委員、小学校PTA役員、地域活動、興味を持って申し込みされたかた等が参加され、令和5年度に作成したマップを基に、「地域に何が足りないか？」「地域に何が必要か？」「地域でこんな取り組みやってます。」「やってみたい。」等を話し合いたくさんのご意見や企画が出ています。地域の方々の熱い声に毎回毎回感動させていただいているとともに、たくさんの企画が立ち上がるよう考えていけたらと思います。

- 誰でもできる健康マージャン
- コロナで立ち消えたサロンを復活したい
- 歌を通じた交流の場を作りたい
- 外国人との交流中国語講座やってみたい
- 障害者事業所で高齢者の活躍の場に
- 学校の空き教室での居場所



- 楽器を通じた交流の場を作りたい
- パラソルとイスがあるだけで、居場所になる！
- 仕事や子育てを終え孤立に気づく。地域で活動したい。
- 森を活かしたあそび場
- 孤独ママ(働いているママ)の支援がしたい
- 世代を問わないボッチャ
- 100歳体操、世代問わない交流で広めたい



皆様の活動を教えていただきたく、お邪魔や取材させていただくこともございます。また、地域づくりの中で、お困りなことなど、ご相談ください。悩まず一緒に考えていきましょう。



発行元

福祉総務課 福祉相談支援担当

電話: 048(259)7947

令和6年 第2号
発行日 12月1日

～つながり ささえあい かわぐち～ 地域づくり通信



令和6年度より、重層的支援体制整備事業が本格実施となりました。今までは、自分たちが管轄する世代向けの取り組みのみとなっていました。が、これからは、世代・属性を問わない地域づくりをすることが可能となりました。

世代・属性を問わない居場所づくり、地域づくりしてみませんか？福祉総務課より地域づくり関係機関での取り組みをご紹介します。

子ども



地域

商店会でのハロウィン仮装パレード

～地域との交流あってこそ取り組み～

芝児童センターが、小学生を対象としたハロウィン仮装パレードを芝本町通り商店会のご協力を得て実施しました。

芝児童センターのこの取り組みは、芝樋ノ爪町会へお声をかけて、始まった取り組み。今年で10年目となる。

参加者は、小学生16人、妹や親を含めると24人。芝本町通り商店会を練り歩いた。28日の小学生の部では、ご協力をいただいた、芝本町通り商店会の5つのお店を回った。子どもたちが、「お菓子をくれないといたずらしちゃうよ」とお店のかたに声をかけ、店主の方から、お菓子をもらってお礼を言っていた。ご協力していただいた店主の方も、お菓子を用意して待っていていただき、子どもたちも、お店の方にもこやかにされていた。お菓子をもらうだけでなく、きちんと、お礼をして帰っていた。通行人も、にこやかに、見守ってくれていた。

参加している子ども達は、芝小、芝樋ノ爪小、芝西小と様々な学校からの参加。毎年参加している方もおり、毎年、手作りの衣装を身にまとい参加されていた。

参加されている方にお話を聞くと、「赤ちゃんの頃から、芝児童センターに通っている。子どものこともわかっていてくれて、安心して、自分も子どもも参加することができる。」と。参加している親御さんも、自分の子どもだけではなく、参加している子どもに気をかけながら、言われていなくても、自然にスタッフに協力している姿が見られた。

芝児童センターは、地域と密着した取り組みが多く企画されている。児童センターを通して、地域と交流することで、地域で活動する良い面が自然と根付いていると感じた。居場所づくりには、「居たい、行きたい、やりたい」が大切である。親御さんたちから自主サークルを行ったり、親御さんが、自分の子ども以外の子ども達と一緒に遊んでいる姿が印象的であった。



ご協力いただいた方との記念写真





つながり ささえあい かわぐち

障害



子ども

「ヒマワリング」のこども食堂

西青木にある地域活動支援センター「ヒマワリング」は、第2土曜日を「カレーの日」として、こども食堂を開催している。時間は、12時から13時。スタッフの戸田さんは、令和5年度の地域づくり関係機関研修会に参加し、地域との交流の重要性を感じ、今年度から、こども食堂を立ち上げた。月に1回第2土曜日に、カレーを200円で食べることができる。こども食堂は、施設スタッフ3名が運営している。

9月のカレーの日の献立は、野菜や大き目の鶏肉がふんだんに入ったチキンカレー。フルーツと生クリームを合えたデザートが添えられていた。当日の利用者は、施設の利用者、利用者の親御さん、近隣の親子やご婦人の計13人が参加されていた。参加者の中には、お代わりしている人もいた。スタッフと利用者、近隣のかたとスタッフが会話しながら、温かい会場となっていた。本日参加された利用者の親御さんは、カレーを食べた後、スタッフへ日頃の施設の様子を伺ったり、家庭での様子を伝え、困りごとなどを相談されていた。顔を合わせることで、普段電話では聞けないことなど、話を聞くことができているのではないかと感じた。また、小学生の児を持つ親御さんは、こども食堂に参加することにより、スタッフと顔が見える関係が築くことで、子育てに関する相談につながっている状況であった。こども食堂を通じて、人とつながり、早い段階で相談できる良い場ではないかと感じた。



チキンカレーとフルーツのデザート



施設利用者さん、利用者さんの親御さん、近隣の親子、近隣のかたが利用されていました。



左から、スタッフの大島氏、吉岡氏、戸田氏

地域づくり通信

令和6年 第2号

みんなの居場所設置支援助成金からできた居場所

さいせいあん ～ほっと一息～彩精庵

令和6年度より、市内において世代・属性などに関わらず交流できる場を設置する団体に対して、初期費用を助成する「みんなの居場所設置支援助成事業」が開始となりました。

助成金を利用して、「グループおかげさま」は、代表の河路さんの自宅1階倉庫内を改造し、地域の方々の交流や芝川沿いを運動などで利用するかたの休憩の場として、南鳩ヶ谷に「彩精庵」を立ち上げた。令和6年10月7日(月)にプレ開催し、毎週月曜日の午前中に利用が可能となっている。予定している月曜日以外にも、代表が対応できる晴れの日には居場所として開放している。

11月11日は、11名が参加し、代表の河路さんとボランティア計5名がスタッフとして対応されていた。参加者は、南鳩ヶ谷だけではなく、青木会館での体操のつながりから、芝や並木から参加されているかたもいた。人数が多かったことから、代表の夫である収平さんが茶会を開催し、茶席の作法やお茶の点てかたなどを説明し、参加者が抹茶と和菓子を味わった。当日は、大人の参加が多かったが、小学校の休校日には、小学生の参加もある。幼児などが参加したときのために、ぬいぐるみや絵本なども用意をしている。今後は、季節の折り紙を折る講座や中国人による餃子づくり講座など、参加者が一緒に取り組めるイベントも企画している。

参加者からは「家にも一人過ごすことが多いから、ここでおしゃべりができてありがたい」「知人と参加したが、ここで新たな出会いがあり、新たなつながりができた」「自分も子ども食堂をやってみたいと思っており、居場所づくりの参考にしたい」「100歳体操の運営について、情報交換ができて役に立った」スタッフのかたからも、「スタッフとして声をかけてもらい自分にも役割ができた」「60歳までは会社勤めだけだったので、地域に居場所ができて嬉しい」との話が聞かれた。様々な活動や居場所の提供をしている代表の河路さんを通じて、たくさんのかたが出会い、そしてつながっていく様子が感じ取れた居場所であった。



抹茶をたてていただきました。



代表の河路さんを囲んでスタッフのかた達